

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0581
施設名	杉並の家保育園
施設所在地	杉並区浜田山4-31-5
法人名	社会福祉法人けいわ会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

植物の根の観察

<テーマの設定理由>

植物には、普段見えている茎や葉、花以外にも土の中に根が張ってあることを教えてもらったことから、どのように根が張られているのかを想像し、実際の根はどのようなものなのか見比べることとなった。

2. 活動スケジュール

活動の前日に戸外遊びで行った公園で好きな植物を一つ選び、抜いて持ち帰った。始めに、植物の根の観察を行い、その後根を見ながら画用紙に描く活動を行った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

植物の根、クレヨン、画用紙を用意し、机1台に4人が座り、グループでの活動を行った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

自分が持ち帰った植物の根を見て、じっくり観察を行い、同じグループの友達の根と比較をして感想を言い合った。その後、根を見ながら、どのような形や作りになっているのか自分で描いてみることで理解や興味を深めていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

実際に植物の根を観察すると、想像していた形とは異なったり、植物によって形が違ったりと、発見や気づきが多かった。「〇〇ちゃんのは僕と違う形だね。違う葉っぱだからかな？」と、植物が異なると、葉や根などの形も変わってくことに気付いていた。根を観察しながら画用紙に描く活動では、最初は植物を見ながら書いていた子ども達も途中から自分で想像した形を描いてみたり、友達の根を見て描いてみたりと工夫をしながら描くことで活動を楽しんでいた。講師から根が沢山張られていると、土の中の栄養や水分を沢山吸収できて大きく育つことができるということを聞くと、沢山描いて「大きく育て欲しいからたくさん描いたよ！」と嬉しそうに知らせていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

自分で取ってきた植物だからこそ愛着が湧き、意欲的に活動に参加していた。どうしてこの植物を選択したのかや、取ってきた時の状況を嬉しそうに知らせる姿があった為、話を聞くと嬉しそうに話を聞いて満足すると、保育者や講師の話を聞いて切り替えができていた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0581
施設名	杉並の家保育園
施設所在地	杉並区浜田山4-31-5
法人名	社会福祉法人けいわ会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

土が水を吸う様子を観察する

<テーマの設定理由>

前回鉢作りを行ったが、実際に鉢に植物を植えるためには何が必要かを考えた。植物が育つためには、土や水が必要であることを講師に教わったことから、どのような土が植物を育てるうえで適しているのかをみんなで考えることとなった。

2. 活動スケジュール

前半はスポイト、水、新聞紙を使って水を吸収する様子を見る実験、その後3種類の土を用いて水の吸収率の実験を行った。

後半は、前回作った鉢に土を入れて植物の種を植える活動を行った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

スポイト、水、新聞紙、発砲容器、畑の土、園庭の土、園芸用の土、鉢×13、シロツメクサの種、シャベル

保育室内で机を4台使用し、1台に3～4人ずつのグループになって活動した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

土が水を吸うことで、植物の根が土の中の水分を吸って成長していくことを講師から教わり、スポイトと新聞紙を使った実験は子ども達自身が行い、楽しんで参加していた。その後、土の違いが見られる実験を行うと、どの土がどの程度水を吸収するのかを比較して楽しむ様子があった。最後は鉢に畑の土を入れ、土に水を含ませ、シロツメクサの種を植えた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

実験を喜び、意欲的に活動に参加していた。新聞紙とスポイトを使った実験では、その程度水を含ませると溢れてしまうのかというところに気付き、友達同士で伝え合って活動をしていた。土を比較する実験では、それぞれ同じ量の水を含ませたが、すぐに溢れてしまうもの、溢れないもの、吸収しないものと、それぞれの違いに気付くことができた。水を吸収しないものは種が流されてしまうということを講師から教わると、「それじゃあ僕たちは使わない方がいいね」と声にする姿があった。

シロツメクサの種を植える活動では、よく育つように講師の話をしっかりと聞いて活動していた。「大きくなってね」と種に声を掛けたり、「水と土をちゃんと混ぜないと」と言って張り切る様子もあった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

水の吸収率を見る実験では、新聞紙を用いたが、土の比較を行ったため、それに伴って新聞紙以外にも素材を用意すればより比較が楽しめたのではないかと思った。

自分で植えた種がよく育つようにと意欲的に活動していたが、その後の植物の世話も大切であることを教わったことで、水やりを積極的に行ったり、気候によっては植物に気を配る様子も見られて良かった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0581
施設名	杉並の家保育園
施設所在地	杉並区浜田山4-31-5
法人名	社会福祉法人けいわ会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

植物の標本作り

<テーマの設定理由>

前回の活動で根の標本を作り、今回は花を使った活動をする事を子ども達に伝え、押し花を作りたいと話があったことから。

2. 活動スケジュール

前回の活動で使った根を新聞紙に挟んで乾燥させておいたものをクリアファイルに挟んで標本にし、その後好きな花を選び、花の観察、標本作りをした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

植物の根、花、クリアファイル、画用紙、セロハンテープ

保育室に机4台を設置し、1台に4人程度座りグループでの活動をした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

前回の活動で使用した根をファイルに挟み、自分だけの植物標本を作った。その後は講師が用意した花を観察し、花びら、雌蕊、茎、葉などを分解してどのような作りになっているのかを観察した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

実際に植物の根を観察すると、想像していた形とは異なったり、植物によって形が違ったりと、発見や気づきが多かった。「〇〇ちゃんのは僕と違う形だね。違う葉っぱだからかな？」と、植物が異なると、葉や根などの形も変わってくことに気付いていた。根を観察しながら画用紙に描く活動では、最初は植物を見ながら書いていた子ども達も途中から自分で想像した形を描いてみたり、友達の根を見て描いてみたりと工夫をしながら描くことで活動を楽しんでいた。講師から根が沢山張られていると、土の中の栄養や水分を沢山吸収できて大きく育つことができるということを聞くと、沢山描いて「大きく育って欲しいからたくさん描いたよ！」と嬉しそうに知らせていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

自分で取ってきた植物だからこそ愛着が湧き、意欲的に活動に参加していた。どうしてこの植物を選択したのかや、取ってきた時の状況を嬉しそうに知らせる姿があった為、話を聞くと嬉しそうに話をして満足すると、切り替えて保育者や講師の話を聞くことができていた。植物への興味から次々に花を分解する姿があり、部位を講師に積極的に聞き、得た知識を保育者や保護者に知らせることで知識の習得になっているようだった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0581
施設名	杉並の家保育園
施設所在地	杉並区浜田山4-31-5
法人名	社会福祉法人けいわ会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

花の標本（押し花の葉）作り、鉢作り

<テーマの設定理由>

前回の活動で花の標本作りの下準備をし、今回は完成させる活動をするを子どもに伝えていた。また、子ども達が自分で植物を育てたい思いがあることから、種を植える鉢作りをすることを提案すると嬉しそうにしていたことから。

2. 活動スケジュール

前回の活動で使った花を新聞紙に挟んで乾燥させた。出来上がった押し花を画用紙に貼り、茎や葉を自分なりに描き、ラミネート加工して標本（葉）の作成をした。
その後、ペットボトルと紙粘土を用いて鉢作りを行った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

乾燥させた花、クレヨン、画用紙、ラミネートフィルム、ラミネーター、2Lペットボトル×13、紙粘土×13

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

前半は押し花を使って葉作りを行った。自分の好きな花を選び、画用紙に並べ、サインペンを使って葉や茎を描いた。保育者がラミネート加工をして葉を完成させる間、鉢作りを行った。ペットボトルに付く紙粘土を用いて、粘土に絵具を混ぜ込み色付けをしたり、好きな形に形成したりと、自分だけの鉢を作った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

花を選ぶ際には、花の名前を講師に聞いたり、自分で想像した葉や茎の形を描いたことを知らせたりと、楽しんで活動を行っていた。それぞれの工夫や想像したことが表現されていて素敵な作品となっていた。完成した葉を見ると、嬉しそうにしながらも友達の作品を見て、「こうすればよかったかな？」と更に良くしようとする子の姿もあった。

鉢作りでは、紙粘土を何色にするのか、どのような形にするのかをじっくりと考える子の姿が多かった。考え込むと不安になり、保育者に相談する姿もあった為、子どもの想像していることを汲み取り、一緒に考えながら良い作品を作ろうと挑んだ。完成すると、工夫した所や頑張った所を保育者や講師に嬉しそうに話す様子が多かった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもの興味や関心を深めるために、予め講師に花の名前を聞き、子ども達にいつ聞かれてもいいようにしておくべきだったと反省した。

子ども達自ら工夫した所などを知らせてくれたため、クラスで簡単な発表会を設けて、みんなで見せ合うことをすれば良かったと思った。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0581
施設名	杉並の家保育園
施設所在地	杉並区浜田山 4 - 3 1 - 5
法人名	社会福祉法人けいわ会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自分の思い描いた花を描く

<テーマの設定理由>

最後の活動であるため、今までの活動を振り返り、自分が思い描く花や好きな花を自由に描くことに決めた。

2. 活動スケジュール

前半は、氷を模造紙を滑らせ、水を吸収した模造紙から緑色の画用紙が浮き出てくる実験の活動を行った。

後半は絵具を用いて自由に花を描く活動を行った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

画用紙（緑色）、模造紙、氷、絵具（緑、ピンク、水色）、雑巾

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

初めに氷を触る中で溶ける様子や冷たさを感じた。白い画用紙の上で氷を溶かすと、下に敷いてあった緑の画用紙が浮かび上がり、それを植物の葉に見立てて楽しんでいた。その後、ピンク・水色・緑の絵の具をスポンジにつけて、浮かび上がった画用紙に思い思いに塗り花に見立てた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

氷を触ると、「冷たくて気持ちいい!」「家にも氷あるよ!」と言いながら氷に触れたり、容器の中に氷を入れて溶かすと冷たい水に変化して行く様子を見て、「水になったよ!」と変化を楽しんでいた。また、白い画用紙の下から緑の画用紙が浮かび上がってくると「全部緑にしようよ!」と言いながら白い部分を無くそうとしていた。絵具を使うと、最初は慎重にスポンジを使いながら描いていたが、慣れてくると足や手等全身を使いながらダイナミックに花をイメージしながら描いていた。また、色が混ざり合いオレンジ色や紫色が出てくることに気付くと驚いていた。描き終わると、「ここは大きなお花にしたよ」「ここのお花は色を混ぜて作ったんだ!」と作品の中で頑張った部分を友達同士で伝え合っていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

画用紙を氷で溶かす際に下に緑の画用紙を挟んでおくことで「もっと見えるようにしたい!」「次はなにが出てくるんだろう!」と探求心を掻き立てて意欲に繋がっているなど感じた。また、一年を通して、色々な花を見てきたことで自分達なりに色々な花を表現している姿から子ども達にどんな花を作ったのか聞くと、嬉しそうに話をしていた。